広島大学におけるストレージ基盤および GakuNin RDMのあり方検討について

西村 浩二
情報メディア教育研究センター
財務・総務室情報部
kouji@hiroshima-u.ac.jp

NIIオープンフォーラム2023 (AXIES-RDM部会合同トラック)

CC BY ND

広島大学の概要 (令和4年5月1日現在)

- キャンパス，遠隔地区・施設，県外・海外拠点施設等
  - 東広島地区 (東広島キャンパス),
    広島地区 (霞キャンパス，東千田キャンパス),
    福山地区, 向島地区, 竹原地区, 呉地区, 宮島地区
  - 県外センター・オフィス (東京，大阪，福岡)
  - 海外センター・オフィス (中国5, インドネシア2,
    ベトナム1, ブラジル1, 韓国1, 台湾1, ロシア1,
    ケニア1, エジプト1, ミャンマー1, メキシコ2,
    カンボジア1, リトアニア1, ドイツ2, モンゴル1)
- 部局等
  - 学部12, 特別専攻科1, 研究科15 (うち11研究科は在学生向け・学生募集停止), 研究科横断的な学位プログラム1
  - 附置研究所1, 学部等附属の教育研究施設17, 全国共同利用施設1, 共同利用・共同研究拠点2, 中国・四国地区国立大学共同利用施設1, 学内共同教育研究施設等27, 各理事室所属のセンター等11, 図書館・博物館等5
  - 大学病院 (診療科：医科34, 歯科13)

- 構成員数19,180名
  - 学部学生10,603名, 大学院生4,463名, 専攻科学生11名, 研究生・科目等履修生524名
  - 役員11名, 教員1,815名, 職員1,753名)

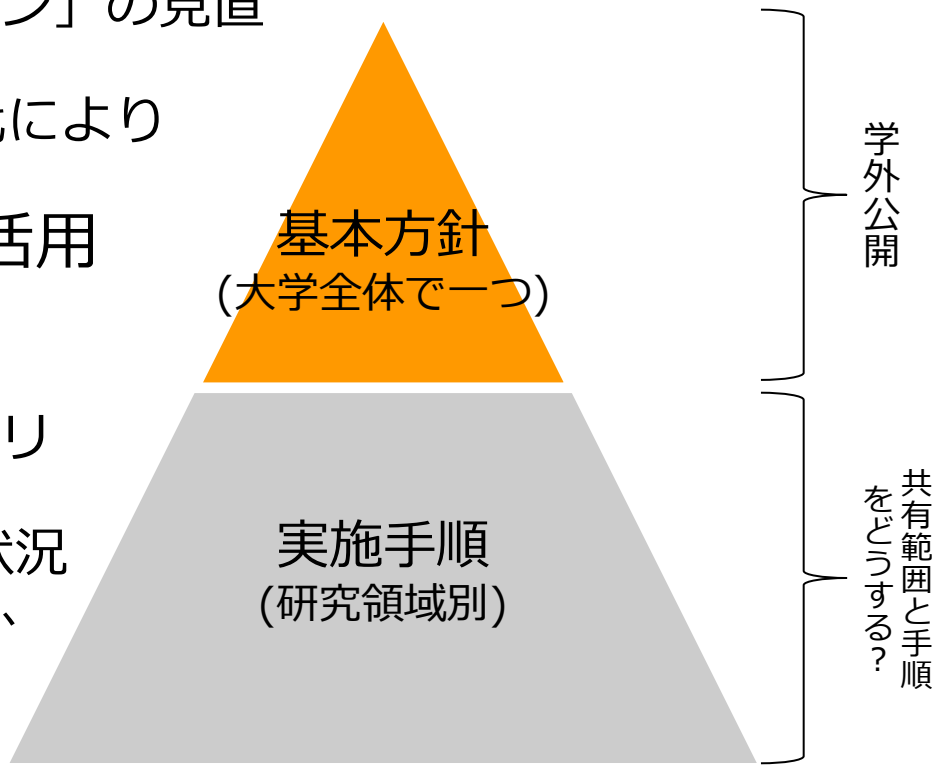
https://www.hiroshima-u.ac.jp/about/about

今日のお話

- GakuNin RDM利用の現状と課題
  - 制度・規則設計の観点
    - 研究データ管理の組織としての枠組み
    - 研究データ管理の利用対象者の算定
  - 機能・環境整備の観点
    - ストレージの選定どうする？
    - 対象者の選定どうする？
- ストレージ基盤整備の現状と課題
- GakuNin RDMのあり方 (戦略) 検討

研究データ管理の現状と課題

- 制度・規則設計の観点
  - 研究データの管理方法等検討WG
    - 広島大学の研究データの管理・利活用に係るデータポリシーの策定、組織的な研究データ管理のための環境整備の検討及び「広島大学における研究資料等の保存に関するガイドライン」の見直しを検討し、実施案を策定する
    - 理事・副学長 (研究担当) や事務担当者の交代により仕切り直し必至
  - 「広島大学　研究データ管理・公開・利活用ポリシー」(基本方針) の策定
    - 2022年6月21日　教育研究評議会承認
    - 広島大学　研究データ管理・公開・利活用ポリシーに関する解説 (学内限定)
    - GakuNin RDMの開発進捗及び他機関の策定状況を参考に、管理・公開・利活用の方針、責務、実施手順を定める



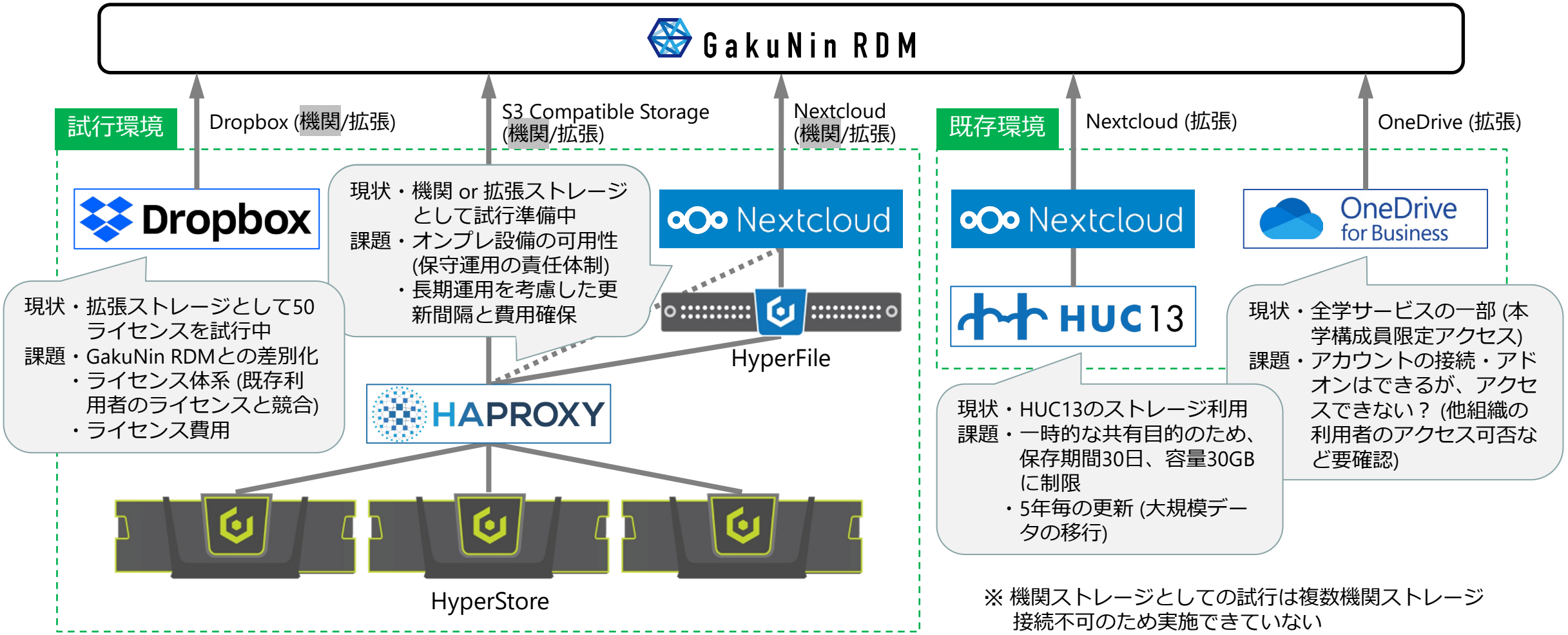
GakuNin RDM (ストレージ) の利用対象者

- 広島大学における「研究者」の定義
  - 教育研究情報収集システムに登録されている者
    (2019年アンケート実施時：1,982名)
    - 広島大学職員任免規則
      - 別表 (第4条関係) 職種, 職名及び職階のうち、以下の職種
        大学教員
    - 広島大学教育研究系契約職員の任免・給与及び労働時間・休日・休暇に関する規則
      - 第3条「教育研究系契約職員」のうち、次の者
        (1) 特任教員
        (2) 寄附講座等教員
        (3) 病院助教
        (4) 大学院法務研究科みなし専任教員
        (6) 研究員
        (8) 特別研究員
  - GakuNin RDMの利用に関わる (必要のある) 者を含めるともっと多い
    (2023年5月12日現在)
    - 2,093名 (研究者：教育研究情報収集システムに登録されている者+α)
    - 3,169名 (研究支援者を含む)

GakuNin RDM利用の現状と課題

- 機能・環境整備の観点
  - ストレージの選定に向けた試行
    - クラウド：Dropbox Enterprise
      - 拡張ストレージとして
    - オンプレ：Cloudian HyperStore (S3互換ストレージ) + Nextcloud
      - 拡張ストレージ or “第2”(?!) 機関ストレージとして
  - ストレージの提供対象者の選定
    - 学認参加IdPによる認証
      - 「研究者」だけでなく支援職員等も対象とする必要あり
      - 教員 (faculty) または職員 (staff) の属性 (eduPersonAffiliation) を持つ者
    - ストレージの選定にも影響
      - 機関ストレージ (全対象者) と拡張ストレージ (研究者の一部) で使い分け？
      - クラウドとオンプレの複数機関ストレージも利用したい
      - 例えば「NII標準Storage」に組織整備の機関ストレージを追加

ストレージ基盤整備の現状と課題



※ 機関ストレージとしての試行は複数機関ストレージ接続不可のため実施できていない

GakuNin RDMのあり方 (戦略) 検討

- 研究データ管理基盤「GakuNin RDM」の整備 (課題解決) を先行させる
  - 10年保存については各組織でガイドライン (研究者の責任) を策定済み
  - 保存を「組織の責任」とすることの難しさ
    - 長期保存 (持続性) の担保 (共通経費化、既存設備の更新間隔との整合性など)
    - 責任部署が分散 (研究推進、リポジトリ (図書館)、情報基盤 (メディアセンター))
- GakuNin RDMの運用 (可能) 性向上を先行させる
  - UIや関連機能 (秘匿解析機能、コード付帯機能等) の充実は、NII研究データ基盤「NII RDC」の完成 (進捗) が前提
    - 利便性 (も大事だが) よりも「運用できること」が重要
  - 外部資金獲得の前提条件化を急ぐ (組織での導入意欲を後押し)
    - 研究データ管理計画 (DMP) 策定・実施の標準環境
    - 既存ストレージサービスとの差別化